

佐竹南家 御日記 第十一卷

自 延享二年 至 寛延二年

「佐竹南家御日記」は、湯沢の所預であった佐竹南家の御用座において天和二年（一六八二）から慶応四年（一八六八）まで書き継がれた公用日記である。地方武士の暮らしや農業、商業、交通、宗教、気象など詳細に記され、当時の社会事情を知る貴重な近世史料である。

本書は、延享二年（一七四五）から寛延二年（一七四九）までの五年分を収録したものである。

○ 鑄錢座が中止となり多くの職人たちが職を失い、行き先もなくふらつく者も出るだろうから、街道筋一宿ずつならよいが、領内に留まらせることがないようにとの通達が出される。（延享二年三月）

○ 八代將軍徳川吉宗が將軍職を家重に譲ることにつき巡見使が御下りになる。それにより領内の宿や道路・橋などの整備、將軍宣下の御振舞、また、佐竹壱岐守家の求馬様（のちの七代藩主義明）の御婚禮や久保田唐見殿（藩主別邸）の解体など、物入りに苦慮する。（延享二年九月）

○ 藩よりの通達で、酒一杯に付き十九文と定められる。（延享三年十月）

○ 江戸から久保田藩庁へ御尋者の人相書について支配所や関所へ触れるようにと仰せられる。

名は、重右衛門事 浜嶋 彦兵衛。一、背五尺八九寸程 一、年二十九歳 一、色白ク齒並常之通 ……

※諸国を荒らした盗賊の一味で日本左衛門と称し、歌舞伎の白波五人男の一人である日本駄右衛門のモデルとなる。（延享三年十一月）

○ 南家九代義持、桃園天皇即位の時、藩主義峯の名代として上洛する。京都では京都所司代牧野備後守に謁し、御太刀・馬代を献上する。当時、洛中洛外とも風邪が流行しており、上洛した殿様はじめ御供衆全て風邪を患った。（延享四年十月）

○ 保寿院（南家七代義安夫人。鷹司家諸太夫牧義広の娘）逝去。享年五十九歳。（寛延元年八月十八日）

○ 関口村善右衛門より、寒中夏酒仕込の時期となったが、村内は米の収量が少なく売米が一切無いため、御町の俵米を百五十俵購入したいとの願いが出され、百俵購入することを許可した。（寛延二年十二月）

待望の「第十一卷」刊行される



◎ A5判・上製・布クロス装・函入

◎ 本文Ⅱ八十九頁

◎ 二五〇部出版

◎ 定価八、〇〇〇円（税込）

◎ 発行 湯沢市教育委員会

〒012-8501

湯沢市佐竹町1番1号

TEL 0183-73-2163

FAX 0183-72-8515